第４学年１組　学級活動（２）学習指導案

日時：令和５年１１月２０日（月）第５校時

【研究主題】

自分の考えをもち　なかまとともに　学びを進めていく児童の育成

～主体的に情報を活用する能力と的確に情報を判断する力の向上を目指して～

１　題材名　思いの上手な伝え方

　　　　　　イ　よりよい人間関係の形成

２　題材設定の理由について

本題材は、学級活動（２）イの「よりよい人間関係の形成」の内容に位置付けられる。人間関係の形成にはコミュニケーションが欠かせないが、インターネットを通じてコミュニケーションを図ることができるようになったことにより、その手段は多様化している。その中で、メールやSNSによる文字や動画のやりとり、オンラインでの会話など、離れたところにいる相手とのやりとりは便利である一方、お互いの顔を直接見ることができないため、普段の会話とは異なる注意が必要となることを認識する必要がある。どのようなコミュニケーションの手段においても、常に相手がいるということを意識し、自分とは異なる感じ方・考え方をもつ相手もいることを考えながら行動できるようにすることが大切であると考え、本題材を設定した。

（略）

指導に当たっては、まず、文字による表現は書いた人の表情や声色が分からない分様々な受け取り方が考えられ、対面でのやりとりよりも誤解が生じやすいことを押さえる。そのため、相手の意図を酌んだり誤解されないようにするための表現の仕方を工夫したりすることが大切であると考えることができるようにする。「相手の気持ちを考えて行動する」、「よくない言葉を使わない」などは、普段の生活で意識できていることだが、状況が変わるとあまり意識できなくなってしまうことにも気付かせたい。例として、実際に自分たちが書いた感想やチャットの内容を振り返ることで、自分自身の言動を見つめ直し、どうすればよいかを具体的に考えることができるようにする。コミュニケーションにはいつも相手がいる、ということを意識しながら考えさせたい。

３　研究主題に迫るための手立て

（１）　パソコン上の言葉の感じ方の違いを考えることで、適切な表現方法を考えることができるようにする。

（２）　グループや全体で考えを交流することで、人によって感じ方や考え方が異なることに気付くことができるようにする。

（３）　相手の立場に立って考えさせることで、常に相手意識を持って発信できるようにする。

４　本時のねらい

友達との意見交流を通してそれぞれの感じ方や考え方の違いに気付き、自分の思いを文字で伝える際に大切なことを考えることができる。

５　学習過程

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 段階 | 学習活動・内容 | 時間 | 〇手立て　※評価 |
| つつつかむ | １　文字で思いを伝えた経験について振り返る。　・ありがとうカード　・図工の感想　２　本時のめあてをつかむ。文字で思いを伝えるときは、どんなことに気を付ければよいのかな。 | ５ | ○　文字だけで伝えられた場合に気持ちが伝わらない場合があるということに気付かせることで、本時のめあてにつなげるようにする。○　書いた内容がどのように伝わったかを考えさせることで、常に、それを読む相手がいるということを意識できるようにする。（手立て３） |
| さぐる見つける | ３　表現の仕方の違いによる感じ方の違いについて話し合う。（１）どのように感じるか、カードを提示して自分の考えを示し、全体で話し合う。　 Ａ：すごくおもしろかった気持ち　 Ｂ：ちょっとだけおもしろかった気持ち　 Ｃ：バカにした気持ち　 ①「おもしろかったね」　 ②「笑」（２）　全体で話し合う。　　・人によって感じ方がちがう　 ・書いた人の意図とは違う受け取り方をされる場合がある４　文字でやりとりをする場合の表現の仕方と感じ方について考える。（１）Teamsのチャットを用いた実際のやりとりを振り返り、感想を話し合う。　　・楽しかった　・はやくてついていけなかった　 ・よくないことを書いている人がいた（２）問題点に着目し、問題が起きてしまった原因を考えてグループで話し合う。（３）全体で話し合う。　・ふざけ　・まちがい　・相手が目の前にいないから５　自分の思いを文字で伝える際に気を付けなければいけないことを考える。（１）ワークシートに書く。（２）全体で話し合う。 | 101710 | 〇　コミュニケーションカードを提示させることで、一人一人が自分の考えを示すことができるようにし、互いの考えを把握しやすくする。○　一人一人のカードや発言内容を比較しながら感じ方の違いに気付かせる。（手立て１）〇　意見が偏った場合は、その表現だと、相手が誰でもそのように受け取られやすいということを確認する。* 文字での表現は、発した側と受け取る側で感じ方が

異なる可能性があることに気付くようにする。〇　やりとりの場面について考えさせることで、一方的な発信とは違ったよさや問題点に気付くことができるようにする。〇　メール等のやりとりの経験がない児童にも、起きがちなトラブルの場面を経験できるようにする。○　グループで話し合わせることで、全員が自分の考えを伝えることができるようにするとともに、様々な考え方に触れさせる。（手立て２）〇　自分以外の発言の原因を考えることで、相手の思いや自分もしてしまうかもしれないという可能性に気付くことができるようにする。〇　思ったことをすぐに相手に返すことができることは、便利であると同時にリスクを伴うことに気付くことができるようにする。〇　文字にして発信したものはいろいろな人の目に触れ、残るということを確認し、「自分の発言に責任を持つ」という意識がもてるようにする。○「自分が嫌なことは相手にもしない」は正しいかを問いかけ、異なる感じ方をもつ相手もいることを考えて発信できるようにする。（手立て３） |
| 決める | ６　本時の学習を振り返り、これからの生活で気を付けることを決める。　 | ３ | 〇　数名の児童に発表させ、気を付けたいことを共有するとともに、実生活に生かそうという意識を高めることができるようにする。※人によって感じ方や考え方が違うことに気付き、文字で思いを伝える際に大切なことを考えることができたか。　　　　　　（思・判・表）【ワークシート、発表】 |

【参考】・　LINEみらい財団情報モラル教育教材「楽しいコミュニケーションを考えよう！」

<https://line-mirai.org/ja/download/>（参照2023-2-22）